

保育計画成果報告書

法人名	学校法人 かつみ学園
施設名	木の子保育園
報告者（役職）	畔上 雅代（ 園長 ）
住所・連絡先	神奈川県大和市下鶴間 1816-1
	☎ 046-244-0955
	E-mail kinoko@sanno.ed.jp

○タイトル（保育計画）

運動能力を高め、豊かな感性や表現する力を養い創造力を豊かにする

○主な助成備品

巧技台、ボール、平均台、パラバルーン、楽器一式（カスタネット、鈴、タンバリン、トライアングル、鉄琴、木琴、大太鼓、小太鼓、シンバル、ウッドブロック）

1. 保育計画策定の目的

我が園は、学校法人かつみ学園大和山王幼稚園が地域の待機児童解消の為に平成24年4月に設立し、開園後2年間の0～2歳迄の認定保育園期間を経て、平成26年4月から0～5歳迄の認可保育園となった。その為、幼児クラス増設にあたり、特に不足していた運動用品と楽器類を購入した。

保育計画は「運動能力を高め豊かな感性や表現する力を養い想像力を豊かにする」ということを目標にした。この一年間、購入した保育用品を日常の保育の中に取り入れ、その成果を運動会や発表会で保護者に披露することも目標とした。

子ども達は楽器あそびを取り入れたことで様々な楽器に触れ、音の違いによる表現方法を身に着けたり、リズムを聞き分け体を動かすことも覚えていき、自己表現力を高めるだけでなく、友達と一緒に音を重ねる楽しさも経験できる様にした。それと同時に、楽器の扱い方もしっかり伝え、乱暴にしてはきれいな音が出ない事や壊れてしまう事を伝え、物は大事に使う事を学ぶ事も目的とした。

運動用品では、我が園自慢の大ホールを使って巧技台や平均台をつなげサーキットにし、登ったり渡ったりとバランス能力を高める事ができる様にし、ボールあそびでは、投げる蹴る、つく、など俊敏性を身に着ける事も目標とした。

年間を通して各学年がこの運動用品、楽器類を活用し、子ども達の運動能力向上及び豊かな感性、表現力を高める事を目的として計画をたてた。

2. 具体的な実施内容

【巧技台・平均台】 幼児組

・毎月2回実施している体育指導の時間に限らず、園のホールに日常的に巧技台、平均台をセットしておき、一本橋をわたる、はしご登り、段差のぼり、ジャンプする、など平均台も組み合わせたサーキット形式にし、楽しんで繰り返し運動遊びが出来るようにした。



【巧技台・平均台】 乳児組

・乳児組では戸外に出られない時間や夕方の自由時間を利用し巧技台で遊ぶようにし、運動経験を積み重ねていった。

・はしごの高さを変えながら、四つん這いで渡る、一本橋や二本橋をバランスを考えながら歩くなど、落ちない様にするにはどう歩くのかを子ども達自身が考え体感できるように行っていった。また、台の上からジャンプすることも楽しんだ。

・巧技台に跳び箱や鉄棒を組み合わせることにより、よじ登る力やぶら下がる力も身に付けるようにしていった。



【ボール】 幼児組

・ドッジボール、中あて、サッカーなど、集団での遊びを通し友だちと協力し合って遊ぶ楽しさを体験し、ボールに沢山触れながら俊敏性も養う機会を多く持った。

・ボールを投げる、蹴る、つく、受けとる、ころがすなどの練習を行いながら、ボールを使った体の動かし方を体育指導で学べるようにした。

・元なでしこジャパンの選手を講師に呼び、ボールを使った遊びやサッカーを指導して頂いた。



【ボール】 乳児組

・乳児組では、ボールをころがす、自由にボールを投げてみる、サッカーの様に走って追いかけてキックするなどのボールに触れて楽しむことを中心に実施していった。

【パラバルーン】 年長組

・バルーンは、運動会の種目として11名の年長組が取り組んだ。初めてさわるカラフルで大きな円形の布に子ども達は「これは、何?」「どうやって遊ぶの?」と興味津々であった。最初はバルーンに慣れる為、布を張る、張りながら歩いてみる、「洗濯じゃぶじゃぶ」と声を掛け合いながら両手に持ち左右に揺らす、バルーンを膨らませてみる、そこに後ろ向きに座る、寝転ぶ、中央に先生が入り持ち上げメリーゴーランド、などと一枚の布から色々な技が出来ることを伝え一緒に取り組んでいった。初めは、布を張りながら歩くという基本動作にも息が合わなかったり、布を張る力の強弱でバランスがとれずスタート位置から大きくずれてしまうなどの修正が多かったが、練習していくうちに子ども達の底力に感動、運動会では曲に合わせて見事演じることができた。



【楽器】 幼児組

・音やリズムに対する感覚を育てる為、日々の保育の中で楽器を使用したリズム遊びを行っていった。リズム遊びは、音楽に合わせて楽器を鳴らすだけでなく自由に感じたまま音を奏でることにより表現する喜びを味わうことも目的として行った。同時に各楽器の正しい持ち方と乱暴にはきれいな音が出ず、優しく扱うことも丁寧に伝えていった。

・10月頃から発表会に向け3～5歳合同(35名)の合奏の練習も開始、異年齢で10種類の楽器による合奏に挑戦し、初めはバラバラであったミッキーマウスマーチの曲も発表会では一人ひとりが主役となり、楽しんで演奏し披露することが出来た。



(クリスマス発表会)



(3歳楽器遊び)

【楽器】乳児組

・2歳児組では、楽器に触れるところから始めた。個々に興味を持った楽器を手にし、持ち方にはこだわらず好きな様に持ち、音がでること、楽しむことを中心として進めていった。カスタネット、鈴、タンバリン、トライアングル、ウッドブロックを使い、ピアノに合わせてリズム遊びを楽しんだ。全員が色々な楽器の音色を楽しめる様にした。



(1・2歳の楽器遊び)



(大事にお片付け)

3. その成果と評価

【巧技台・平均台】幼児組

・巧技台や平均台を使うことで全身を使った運動をすることが出来た。
・はしごを渡るときは手を使い、体を支えバランスをとったり、裸足になって行うことで足の指にも力が入り、ふんばる、支える、などの足の使い方が上手になっていった。
・体の使い方が上達したことで子ども達は自信を持ち、散歩先での大型遊具の遊びがより活発になり、高さのある遊具にも挑戦する姿が見られる様になった。その結果、怪我をすることも少なくなった。

【巧技台・平均台】乳児組

・日頃から巧技台あそびを取り入れてきた中で、2歳児クラスは運動会で跳び箱と鉄棒を組み合わせて親子競技として行う事が出来た。
・巧技台のはしごや平均台を斜めにして渡り、ジャンプで着地する。高さのある物は手足でよじ登る事で握力や足先、指の力だけでなくバランス力も身に付き、全員が出来た達成感を味わったことがとても自信につながった。

【ボール】幼児組

・ボールあそびを通してボールに沢山触れることで、ボールを両手で投げるから片手で投げる、転がす、蹴る、蹴られたボールを足で止める、バウンドさせてキャッチするなど色々なボールの扱い方がとても上達した。
・ドッジボールやサッカーなどでは友だちと声を掛け合いボールをパスしたり、運動が苦手な友達にボールが当たらない様にかばったりする姿も見られた。何よりルールを理解し競技を行うことで子ども同士が自発的に教え合い、協力することを学ぶことが出来た。

【ボール】 乳児組

・ 戸外だけでなく、ホールでの遊びの時間などにボール遊びを楽しんだ。投げてキャッチするのは難しいのでボールをころがし、追いかけてキックする姿がよく見られる様になった。その中でもまだまだ追いかけて手に抱え込んでしまう子もいたが、秋頃からボールにもだいぶ慣れ、追いかけてキックや友だちとも蹴り合う動きも上達した。

【パラバルーン】

・ バルーンは一人ではできない遊びである。子ども達は友だちと協力して一つの物に取り組み作り上げる楽しさを経験できたので、自然と協調性が養われ、クラスに団結力が強まっていった様に思う。また、運動会では見た目も華やかで曲に合わせてリズムよく技を完成させたことで子ども達は大きな拍手をもらい、やり遂げた達成感が大きな自信へとつながった。

【楽器】 幼児組

・ 普段の保育で楽器に親しみリズム遊びをする中で、子ども達は自分のイメージや感じた事を表現する楽しさを味わう事ができ、楽器遊びの楽しさだけでなく音楽への興味を広げていく事ができたように感じた。また、楽器の正しい扱い方を知り、物を大切に作る姿勢も身に付く良い機会となった。発表会での異年齢による合奏に向けた練習が、幼児組全体の一体感を生み、一人ひとりが主役の自信に満ち溢れた表情での演奏となった。

【楽器】 乳児組

・ 楽器を用意すると子ども達は笑顔で嬉しい様子を見せるが、手にするとすぐに鳴らし出すので、簡単なお約束事(優しく使う、投げたり叩くなどしない、先生の話を聞いてから)を伝えてから行うようにし、繰り返し伝えることで習慣となっていった。次に、楽器に親しむことでリズムに合わせて自由に表現する楽しさを味わうことができた。1歳児組も鈴やカスタネットを鳴らし、一緒に楽しむ機会を持てたのも良い経験になった。

4. 今後の課題と展望

・ 今回購入した巧技台やボールなどの運動遊具は、継続的に使用し、各年齢に合った使い方を実施することで子ども達の運動能力の向上へとつながってゆくの、今後も有意義に活用し、出来た！やれるんだ！という達成感を体験できるようにしていきたい。

また、バルーンは幼児組だけでなく乳児組もくぐったり、握ったりし、楽しさを共有していきたいと考えている。それと同時に園児だけでなく地域の子育て支援の場でも活用して楽しめるようにしたいと思う。

・ 楽器一式は、高価で種類も豊富に揃える事が出来、本当にありがたかった。今後も楽器の正しい使い方、丁寧に扱うことを伝え続けてゆき、発表会を目指す以外に日々の保育の活動の中に楽器を使ったリズム遊びを取り入れ、子ども達の感性やリズム感を高め、自己を表現する力が育つようにしていきたいと考えている。

以上